(3) 不良債権処理の進捗状況

14年3月期の不良債権処理額につきましては、一般貸倒引当金を含め1兆5,431億円と計画(2,000億円)比大幅に増加いたしました。

この要因は、現在のデフレ傾向のもと、債務者の業況悪化や担保価値の下落に伴うベースの処理額が増加したことに加えて、オフバランス化の促進や、要注意先債権の将来リスクへの対応として、現下の経済情勢や資産劣化の状況を反映した債務者区分等の見直し、最近の貸倒、倒産等の趨勢を勘案した一般貸倒引当率の引き上げを実施したためであります。

また、経済合理性、経営責任の明確化、社会的影響を考慮した上で、4社、247億円の債権放棄を実施いたしました。

なお、13年度におきましては、貸出金償却、債権売却等により元本総額で約1兆2,800億円の最終処理を実施しております。